

7. 2 ホッケ

担当者 調査研究部 藤岡 崇

(1) 目的

道南海域のホッケは道南太平洋～津軽海峡～道南日本海に分布し、刺網、定置網、まき網などで漁獲される重要な漁業資源である。しかし、漁獲量は2004年以降急減して、資源水準の低い状態が続いており、資源の持続的利用を目指し、資源評価結果などの科学的知見に基づく、関係漁業の実態に見合った資源管理のための管理方策の設定が求められている。一方、当海域の資源評価は漁獲量の推移からのみで行われており、より正確な資源評価を行うために科学的な知見に基づく資源評価が必要である。平成18～19年度に実施したホッケ専門部会による取組みをベースに、道央日本海～オホーツク海海域と連携して、資源状況や再生産水準に見合った適正な漁獲圧の提示等を目的に、年齢や成熟生態に関する5課題を設定し、平成20～24年度の5年間で取組むこととなった。そのうち函館水試では、資源評価精度向上のために、漁業実態調査、漁獲物年齢組成調査（檜山～渡島）に取り組むこととなった。

(2) 経過の概要

漁業実態調査として漁業生物の資源・生態調査研究事業と連携し、各海域、各種漁業について漁獲統計情報の収集を行った。また、漁獲物年齢組成調査（檜山～渡島）として漁業生物の資源・生態調査研究事業と連携し、各海域、各種漁業について生物測定を実施し、耳石薄片標本を用いて年齢査定を行った。得られた漁獲統計情報と年齢査定結果から年齢別漁獲尾数を推定した。

(3) 得られた結果

得られた結果についてはI調査研究部所管事業1. 漁業生物の資源・生態調査研究1. 資源生態研究3ホッケの項（表1, 2, 3, 図4, 5, 6, 7）を参照のこと。